

令和2年度 学校図書館評価シート

足立区立湊江中学校 校長 伊東 一

1 学校図書館の現状 (今年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 14,087 冊 (蔵書基準冊数 12,640 冊) / 蔵書率 111.4% (前年度 112.5%)									
	② 新規購入図書 580 冊 / 廃棄図書 1,161 冊 / 増減冊数 -581 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	2%	3%	11%	11%	10%	4%	3%	8%	5%	43%
*国基準	6%	2%	18%	9%	15%	6%	5%	9%	4%	26%
利活用の状況	① 開館時間: 12:30~17:00 (前年度からの変更 <u>あり</u> ・なし)									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 6.66 冊 (前年度: 3.56 冊)									
	③ 学校図書館利用率 519,900% (前年度: 263,800%)									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況 (今年度総括)

新型コロナウイルス感染症対策の影響により、学校図書館の開館日数や利用に制限がかかった。一方で行事や部活動中止の影響から、図書館の利用や年間貸出数は大幅に増え、読書に親しむ生徒が増えた。調べる学習コンクールやビブリオバトル、読書感想文等で図書館の情報を効果的に利用し、主体的に学ぶ力を育み、表現する力を育てることができた。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	①小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。 ②学校図書を活用した探求活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。 ③図書の借り方や扱い等、正しく利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
①休み時間や放課後の時間等、読書をすることができる。 ②図書館の本や新聞等を活用しながら探求活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③学校図書館のきまりや仕組みを知る。	①第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ②学年生徒の調べる学習コンクール参加率50%以上 ③学校図書館のオリエンテーションの学年全生徒の受講率90%
目標達成状況	
①第1学年の生徒一人あたり年間貸出平均冊数前年比は176%であった。前年度より約1か月開館日数が多かったが、その差を上回る利用増となった。(前年度は支援員不在の為9月~3月の開館、今年度はコロナ禍で6月下旬~3月の開館) ②コロナ禍の影響で授業数確保の関係から、調べる学習コンクールから読書感想文に変更した。参加率70%であった。自分の考えをまとめ、表現する力を身に着けることができた。 ③学校図書館のオリエンテーションの学年生徒受講率は100%であった。オリエンテーション直後から利用が多く、1年間継続して学校図書館の活用ができた。	
第2学年	①読書に親しむ意欲を育成する。 ②課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③学校図書館をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る
今年度の成果目標	達成基準
①休み時間や放課後の時間等、読書をすることができる。 ②課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探求活動を進めることができる。 ③学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	①第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増 ②学年生徒の調べる学習コンクールの参加率60%以上 ③読書や探求活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%

目標達成状況
<p>①第2学年の生徒一人あたり年間貸出平均冊数前年比は144%であった。調べる学習コンクールやビブリオバトル等の、図書館を使った学習により利用が増えた。</p> <p>②調べる学習コンクールの参加率は75%であった。課題に応じて本や資料等を使い分け、探究活動を進められた。</p> <p>③読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合は100%であった。学校図書館の決まりを守り、必要に応じて学校図書館を活用できた。</p>

第3学年	<p>①読書を通して考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。</p> <p>②学校図書やICT機器を活用した探求活動を通して、言語活動の育成を図る。</p> <p>③学校図書館をよりよくするための活動をする。</p>
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
<p>①休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。</p> <p>②課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探求活動を進め、表現することができる。</p> <p>③学校図書館のきまりや仕組みについて理解する。</p>	<p>①第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比5%増</p> <p>②学年生徒の調べる学習コンクールの参加率80%以上</p> <p>③読書や探求活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%</p>

目標達成状況
<p>①第3学年の生徒一人あたり年間貸出平均冊数前年比は212%であった。昼休みや放課後、主体的に学校図書館を利用し自習学習をすることができた。</p> <p>②コロナ禍の影響で授業数確保の関係から、調べる学習コンクールから読書感想文に変更した。参加率92%であった。読書の楽しさや、表現力を身に付けることができた。</p> <p>③コロナ禍の影響で授業数削減のため、読書や探究活動の授業は確保できなかったが、朝読書に重点を置き読書の意欲を育てた。</p>

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】
<p>①国基準の蔵書構成比に近づけるよう歴史、自然、産業を増やし、芸術、文学の分野の蔵書を減すよう、選書、廃棄を行った。</p> <p>②全蔵書の2割程度を「3桁分類」に転換した。コロナ禍での閉館が影響し目標に達しなかった。</p>
【学校図書館支援員との連携・協働】
<p>①学校図書館のオリエンテーションは、第1学年の生徒は各クラス1時間、教員は資料を配布し実施した。</p> <p>②調べる学習、ビブリオバトル、授業に必要な資料のレファレンス対応を依頼し、学校図書館を活用した学習活動を実施できた。</p> <p>③各種イベントが中止になったが、オリンピックや多言語、移動教室用の資料をまとめた。各時期や行事、授業にいつでも利用できるようにした。</p> <p>④学校図書館だより、本の紹介、案内の掲示等、生徒の読書活動の向上に努めた。</p>
【その他】
<p>①年度末の貸し出し返却率は99%と目標は達成した。次年度は100%を目指す。</p> <p>②「新聞コーナー」、「調べる学習コーナー」を常設し、「多言語」や「オリンピック」、「百人一首」、「戦争」等、いつでも案内できるよう資料をまとめて配架した。</p>

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

<p>新型コロナウイルス感染症対策により学校図書館を6月まで閉館した。その後もコロナ禍の中で現状に見合わせ図書館担当教員や学校図書館支援員が協力しながら学校図書館運営に取り組んだ。当初学校図書館を活用して探究活動を進め、自分の考えを表現する力を育成する目的で調べる学習コンクールへの参加は全学年の予定ではあったが、授業時数確保等の観点から、2学年だけの参加となってしまった。もともと図書の貸し出し数は低かったが、1年生の貸し出し数が伸び、全体的に若干上昇した。まだまだ学校図書館を全く利用しない生徒も一定数いるため、今後も朝読書に時間を設定等して、読書に親しむ生徒の育成を図っていきたい。</p>
--

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

昨年度新型コロナウイルス感染症対策のため、学校に伺う機会がなく評価等ができないが、「読み解く力」はすべてのことにつながるのでぜひ文章等に触れる機会を多くしてほしい。

7 今後の展望 —課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて—

図書館を利用した授業やイベントを実施し、普段読書をしない生徒にも読書に親しむ機会を多くしていく。貸出、返却のサイクルが途切れぬよう、図書だより等でイベント特集、クラスの利用状況なども掲載し、学校図書館の継続的な利用に繋げていく。

学校図書館の資料構成比を整え、更新、廃棄を適切に行う。生徒の情報活用、探究活動に応えられる資料の整備を進めていく。

教員の学校図書館活用における意識のばらつきがあるため、教職員向けに図書館案内や、新着図書案内を発行し、図書館の役割を明確化していく。学校図書館基本計画の推進、連携、共同しながら学校図書館の運営を図っていく。

これらの取り組みにより、生徒が主体的に読書や情報を効果的に活用できる、学校図書館の機能向上を実現していきたい。